IVI公開シンポジウム2017 - Spring -

工程情報と製造ノウハウのデジタル化

2A01

ブラザー工業

オークマ

日立製作所

三菱電機

図研プリサイト

日立ソリューションズ

アビームコンサルティング

西村栄昭(ファシリテータ)

鷲見仁 (エディタ)

佃軍治

寺澤直也 電通国際情報サービス

古矢知彦 日本電気

松本俊子 ソニー GM&O

森宜幸 ジェイテクト

深堀竜也

松原芳明

村岡祥雄

山田良彦



対象業務の現状と課題

作業指示は・・・

"暗黙の了解"などの

【隙間】が存在し、伝わらない!!



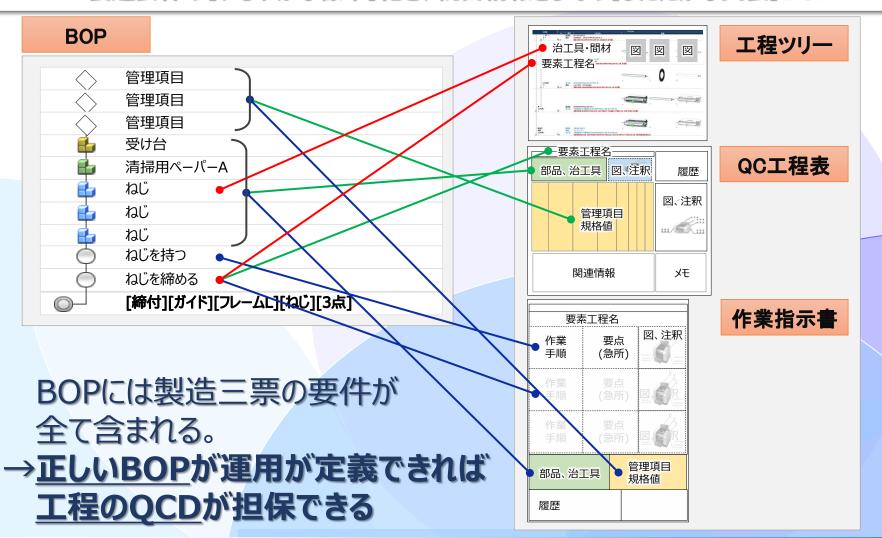
各社がチェックリスト、手順書などの活用で取り組み中だが、実態は・・・

- ①見積もり、工程設計を行う製造ノウハウは【属人的】
- ②JIS/ISOなど公開ノウハウは【文語記述】
- ③製造三票は日本的摺合の集大成であり【各社各様】
- ④チェックリストなどの運用は工数増大を招き【不完全実施】

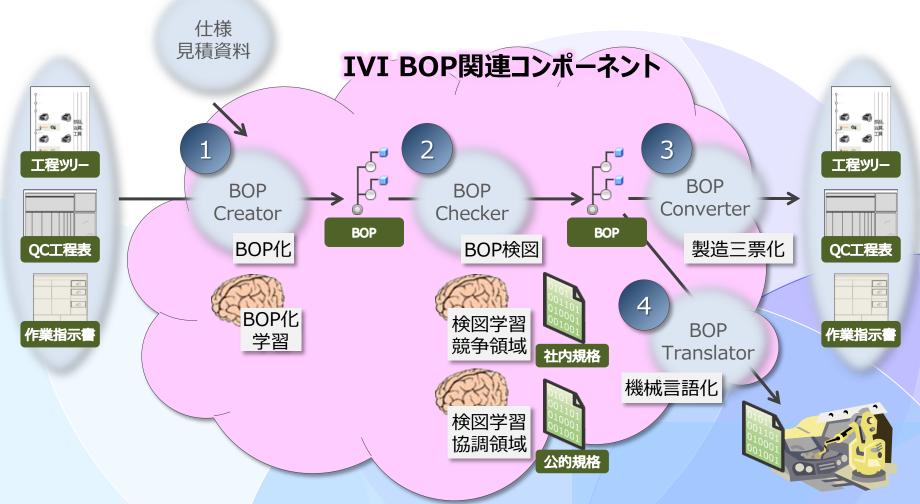
製造要件が確実に伝達できる製造要件モデル【BOP】を構築し、 精度が高い見積もりを、【BOPを使って行う】。 検査に頼りがちな工程設計を、【源流対策】で行う。

BOP(Bill Of Process)とは?

製造要件の【ゆるやかな標準】化と、統合情報としての【したたかな実装】BOP



IoT活用後の目指す姿



BOPで【製造要件】と、【協調領域】【競争領域】を明確化し、 高品質・高生産性を担保しながら、企業間、工場間連携を実現する。

実証実験のテーマ選出理由

- ■アセンブリメーカだけでなく、部品メーカやEMSでも BOPが活用できるかどうかを検証する
- ■検図に関して、以下の3点がカバーできるかを検証する
- ①定量的及び定性的な情報が検図できる

②協調領域、競争領域両方が検図できる

③検図のロジックが汎用化・簡素化できる

EMS(基板実装)AS-IS



西村工業

プリント基板の製造依頼



部品実装済み基板



M社

品質基準

作業工程

リソース

部品仕様

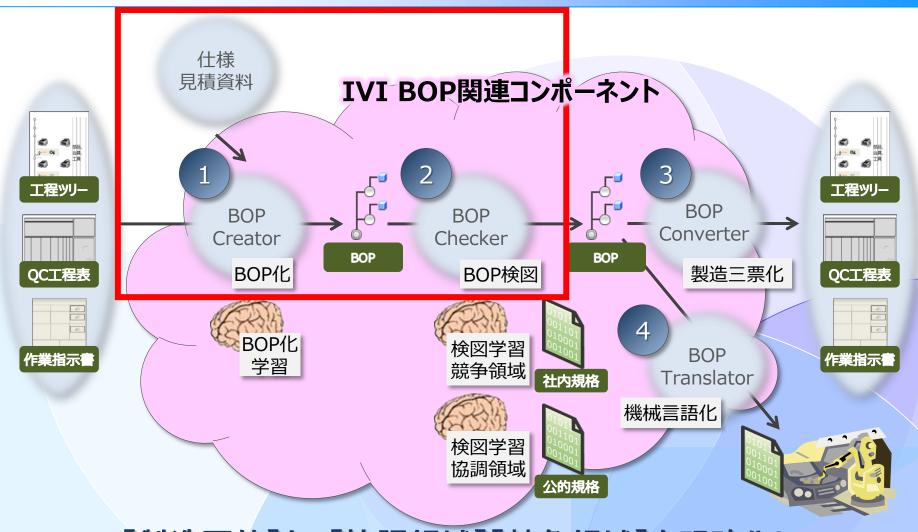
製造設備

客先仕様

手作業による

- 。゚・データ変換
 - 品質チェック

実証実験シナリオ(EMS:基板実装)



BOPで【製造要件】と、【協調領域】【競争領域】を明確化し、 高品質・高生産性を担保しながら、企業間、工場間連携を実現する。

施策 -見積WEB/自動見積BOP作成/自動検図-



自動検図した結果がBOP上で確認できる

製造メーカ(清掃工程) AS-IS

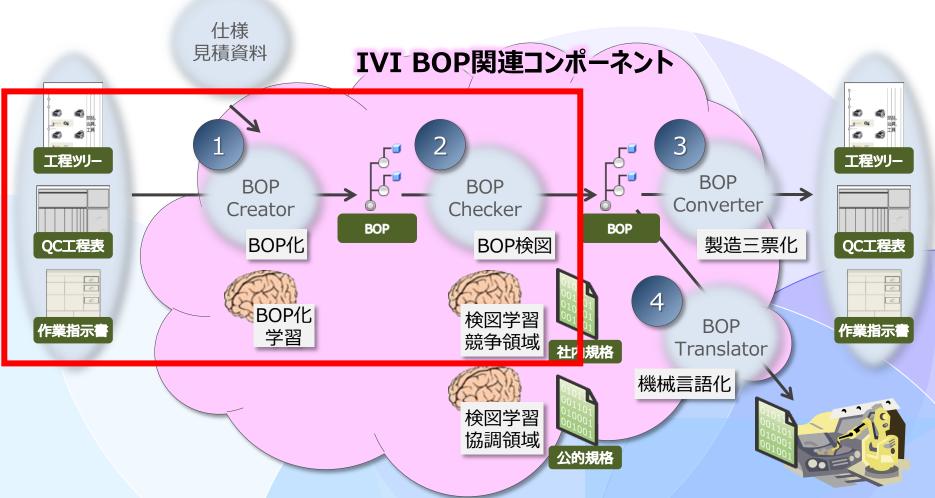


新人だと対策方法が 分からない 忙しいベテランの アドバイスが必要

資料も大量で どれを見たらよいか 分からない 調査に工数がかかる



実証実験シナリオ(清掃、締結)

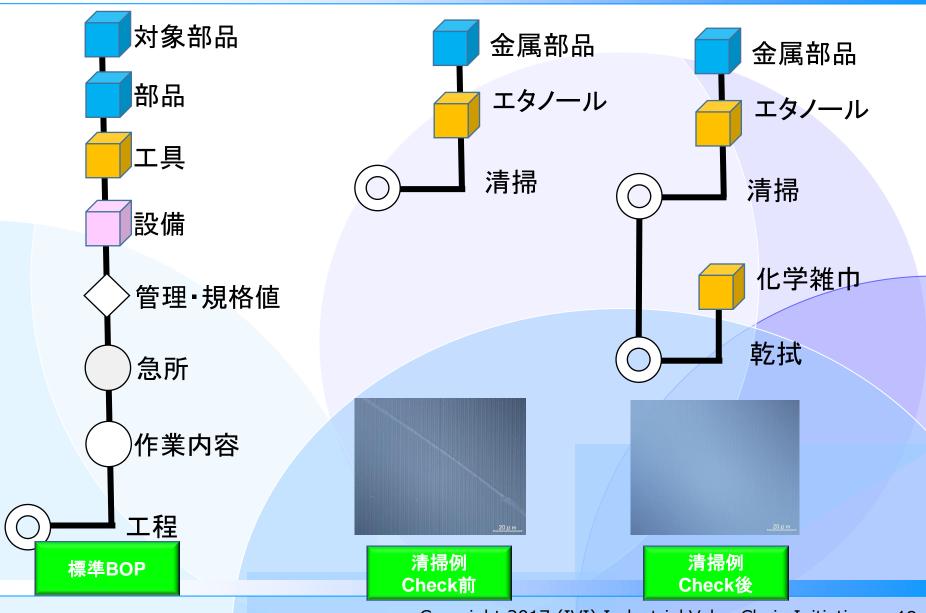


BOPで【製造要件】と、【協調領域】【競争領域】を明確化し、 高品質・高生産性を担保しながら、企業間、工場間連携を実現する。

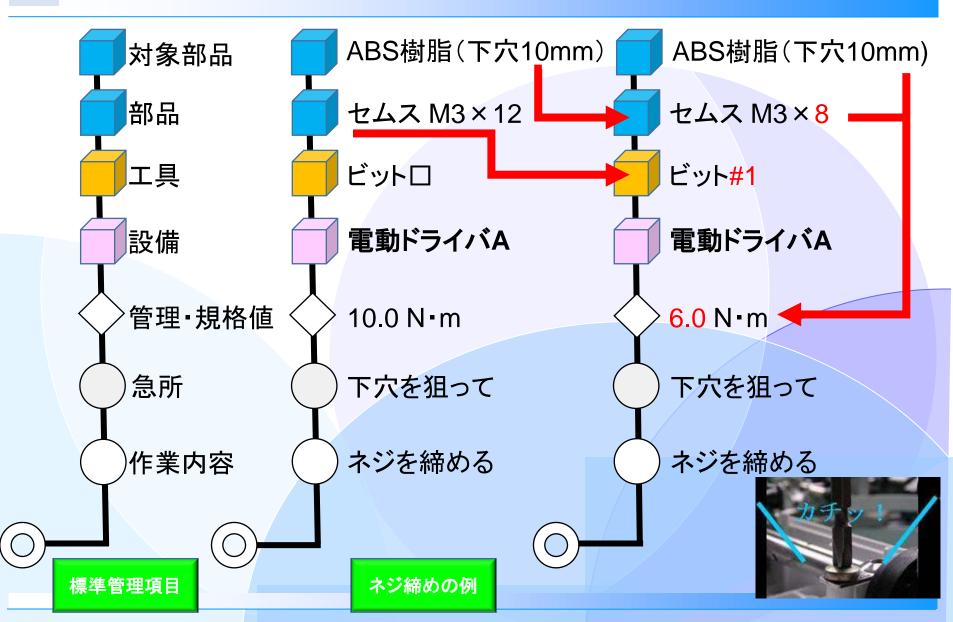
改善施策② -自動検図・修正 -



実証実験シナリオ(清掃)



実証実験シナリオ(ネジ締め)



実証実験シナリオ(ネジ締め)

八平五	一、本本点八	上ご ローエモ 半五	41.7	## 155 (+1 +1 +1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 +						i囲[N·m]	
分類	強度区分	ボルト種類	サイズ	推奨締付けトルク(N・r				ねじの呼び	下限	上限	
		た角穴付きボルト	M5		XXX		の締付けトルク	M2	YYY		ZZZ
本本 在	44 34		M6		XXX	- A= L=		M2.5	YYY		ZZZ
京京年	●領域		M8		XXX	静領域		M3 × 0.5	YYY		ZZZ
0.00			M10		XXX			(M3.5)	YYY		ZZZ
	社		M12		XXX	B社		M4 × 0.7 M5 × 0.8	YYY		ZZZ 777
_	ALT.					DTL		M6	YYY		ZZZ ZZZ
			M16		XXX			M8	YYY		ZZZ
			M20		XXX			M10	YYY		ZZZ ZZZ
	10.9	カラーボタンボルト	M3		XXX			M12	YYY		ZZZ
			M4		xxx			M16 M20	YYY		ZZZ
			M5		XXX			(M22)	YYY		777
			M6		XXX			M24	YYY		ZZZ ZZZ ZZZ
			M8		XXX			M30	YYY		ZZZ
								M36	YYY		ZZZ
		1 - 18	M10		XXX			M42 M48	YYY		ZZZ
	8.8	六角ボルト	M6		XXX ——			M48 M56	YYY		ZZZ
			M8		XXX			M64	YYY		777
			M10		XXX			M72×6	YYY		ZZZ ZZZ ZZZ
			M12		XXX —			M80 × 6	YYY		ZZZ ZZZ
			M16		XXX			M90 × 6	YYY		ZZZ ZZZ
	L				^			M100 × 6	YYY		222
分類	強度区分	ボルト種類	サイズ	推奨締付けトルク(N·m)							
JIS(協調)	12.9		M3	1.67							
			M4	3.92			7	7			
			M5	7.94		1					
		<u> </u>	M6	13.53							
	調領域	4	M8	32.75	<u></u>						
			M10	65.02		競争領域 ③ 競争領域	44.077 — "	all all			
-			M12	113.76	∪ ∌	·競争頑魂 🕨 競争頑魂	参照元 ブラヤ	ザー工業			
			M14	180.44	一条件						
			M16	281.45	ID	オブジェクト	要素	属性	条件	 値	強制
			M18	387.36		要素工程	自身	名称		<u>□</u> −般[締付]	325,123
						部品	子	名称		-般[*M6*]	
			M20	549.17	3	<u> </u>	子	名称		- 般[トルク値] - 般[トルク値]	
			M22	747.27							
			M24	949.28	4	管理項目	子	規格値		一般[2.75]	
			M27	1392.54	5	管理语日	1-4	担格店	-		
			M30	1882.88		-			Array Array	Alaba A	
			M33	2569.34		一定の	でキュリ	アイを発	!保したDI	3統含	
			M36	3295.04						300	
			M39	4265.89							

実証実験のまとめ

- ■電子基板実装の見積というビジネスシーンにおいて、<u>ばらばらな</u>設計<u>情報</u>、部品情報、製造情報から【BOP】に変換することができた。
- ■基板リフロー工程の温度プロファイルチェックを実 例に【設計制約】【製造制約】の摺合が実施できた。
- ■清掃工程のBOP検図において、工程設計を成立させる工程要素の【過不足を検出】させることができた。
- ■締結工程(ネジ締め)のBOPチェッカーの検図ロジックに【競争領域】と【協調領域】を<u>共存</u>させることができた。

WG【2A01】の16年度活動統括

BOP化することにより、データ体系が統一化され競争領域、協調領域での検図ができる

企業の大小、アセンブリメーカ・部品メーカ・EMSなど企業形態に既存せず、本施策が有効であることが分かった

ベテランのノウハウや工数がかかる検図作業を自動化することができ、工数削減・品質向上に寄与できることが実証できた

Special Thanks





ご清聴ありがとうございました